

財政健全化計画等執行状況調査

団体名	北海道千歳市
会計名	病院事業会計

1. 地方債現在高・公営企業債現在高

(i) 推移表

(単位: 百万円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	基準年度
計画目標値 A	8,429	8,164	7,869	7,562	7,239	8,900
実績(見込)値 B	8,400	8,685	8,397	7,963	7,512	
乖離値 C(B-A)	-29	521	528	401	273	-1,388
乖離率 D(C/A)	-0.3%	6.4%	6.7%	5.3%	3.8%	-16%

※実績値には下線を引くこと。

(ii) 実績値が計画承認時の目標値に届かない理由

【平成20年度以降】

平成21年度からDPC(入院診断群分類別包括払制度)を導入することになったが、制度導入に伴い、当初計画では予定していなかった『電子カルテシステム』や『医事会計システム』など医療情報システムの更新について、診療報酬を請求するうえで更新が必須となったことから、平成20年度予算において医療情報システム更新事業費として約6億円を計上するとともに、財源として企業債を充当したことから、平成20年度以降の企業債現在高が計画を上回ることとなった。

(iii) 改善に向けての取組み及び今後の見通し

現在、年度内の『公立病院改革プラン』策定に向け、投資計画の見直しを進めていることから、平成21年度以降の医療機器等整備計画の全般的な見直し・圧縮をすることや積極的な補助事業の活用など、企業債残高の削減に向けた整理・検討を進めている。

2. 実質公債費比率・累積欠損金比率

(i) 推移表

(単位: %)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	基準年度
計画目標値 A	-46.6%	-49.2%	-50.9%	-51.8%	-52.0%	-38.0
実績(見込)値 B	<u>-47.3%</u>	-49.3%	-50.3%	-51.5%	-51.6%	
乖離値 C(B-A)	-0.70%	-0.10%	0.60%	0.30%	0.40%	37.5
乖離率 D(C/A)	1.5%	0.2%	-1.2%	-0.6%	-0.8%	-99%

※実績値には下線を引くこと。

(ii) 実績値が計画承認時の目標値に届かない理由

【平成19年度】

収益について、診療単価は入院・外来ともに計画を上回ったものの、耳鼻咽喉科常勤医師の欠員や外科常勤医師の不補充等の影響により患者数が計画を大きく下回ったこと、一方、費用においては入院・外来患者数の減少に伴い薬品・診療材料の使用量が減少したことに加え、適切な在庫管理や購入価格の圧縮に一層努め、材料コストの縮減をはじめ、費用全般を削減したことから、純損失、累積欠損金ともに計画を下回ったものの、医業収益の減収が大きかったことから、累積欠損金比率において計画を上回った。

【平成20年度】

収益について、後期高齢者医療制度の影響や平成19年度決算を踏まえ、入院・外来患者数ともに減少の見込みであることや『入院基本料7:1看護』について7月からの導入になったことから、診療単価が計画を下回ることとなり、そのため収益全体で計画を下回る見込みとなっている。

費用については、入院・外来患者数の減少に伴い材料費が減少していることに加え、費用全般的に圧縮が図られていることから、純損失、累積欠損金ともに計画を下回る見込みであるものの、医業収益の減収により累積欠損金比率が計画を上回る見込みとなっている。

(iii) 改善に向けての取組み及び今後の見通し

現在、年度内の『公立病院改革プラン』策定に向け、収支改善等の検討を進めており、収益面については入院・外来患者数を確保するための地域医療機関との連携強化の取組みや『入院基本料7:1看護』を維持するための看護師欠員補充等を進めているほか、費用面においてはDPC(入院診断群分類別包括払制度)の導入に伴い、積極的な後発医薬品への切替え、適切な在庫管理や購入価格の圧縮など、より一層の材料コストの縮減及び職員の節約意識の向上をさらに進め、消耗品費や光熱水費等の管理経費の縮減など、費用全般についての削減を進めている。

3. 職員数

(i) 推移表

(単位:人)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	基準年度
計画目標値 A	250	262	262	262	262	239
実績(見込)値 B	<u>228</u>	257	257	257	257	
乖離値 C(B-A)	-22	-5	-5	-5	-5	18
乖離率 D(C/A)	-8.8%	-1.9%	-1.9%	-1.9%	-1.9%	8%

※実績値には下線を引くこと。

(ii) 実績値が計画承認時の目標値に届かない理由

(iii) 改善に向けての取組み及び今後の見通し

4. 改善額

(i) 推移表

(単位:百万円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	合計	補償金免除額
計画目標値 A	89	305	349	394	447	1,584	6
実績(見込)値 B	<u>-102</u>	130	216	259	311	814	
乖離値 C(B-A)	-191	-175	-133	-135	-136	-770	808
乖離率 D(C/A)	-214.6%	-57.4%	-38.1%	-34.3%	-30.4%	-48.6%	13467%

※1.実績値には下線を引くこと。

※2.補償金免除額合計欄には、当該計画の「I 基本的事項5線上演望額等」の補償金免除額欄の合計に記載している金額を記入すること。

(ii) 実績値が計画承認時の目標値に届かない理由

【平成19年度】

入院・外来患者の確保については、耳鼻咽喉科常勤医師の欠員、外科常勤医師の不補充等の影響や風邪等の流行的疾病もなかったため、入院・外来ともに患者数が計画を下回り、改善額が計画を大きく下回ることとなった。

これに対し、診療単価については、入院診療単価において入院患者の疾病構造の変化等により外科、整形外科及び皮膚科において計画を大きく下回ったものの、外来診療単価が計画を上回ったことから、改善額は上回る事となった。

【平成20年度以降】

入院・外来患者の確保については、後期高齢者医療制度の影響や平成19年度決算を踏まえたことから、入院・外来患者数ともに減少の見込みとなり、改善額が大きく下回ることとなった。

これに対し、診療単価については、入院診療単価において、『入院基本料7:1看護』は導入しているものの、入院患者の疾病構造の変化等により計画を下回る見込みとなったものの、外来診療単価は平成19年度決算等を踏まえ、計画を上回る見込みであることから、診療単価全体の改善額は計画を上回る見込みとなっている。

(iii) 改善に向けての取組み及び今後の見通し

現在、年度内の『公立病院改革プラン』策定に向け、収支改善等の検討を進めており、入院・外来患者数を確保するため地域医療機関との連携強化の取組みや『入院基本料7:1看護』を維持するための看護師欠員補充等を積極的に進めているほか、経鼻用内視鏡スコープの購入など、患者数増加に繋がる医療機器の更新等も積極的に実施し、患者数確保に努めている。